

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：近衛飛鳥

氏名のローマ字表記：KONOE ASUKA

所属：千葉工業大学

専門分野：近現代モンゴル史（医療衛生史、宣教医療、植民地医療）

発表のタイトル：『フフ・トグ』新聞内の衛生・健康記事に関する考察

発表要旨（600字～800字程度）：

本報告は、1941年から1945年までの間、満洲国興安総省で発行されていたモンゴル語新聞『フフ・トグ』（青旗）の中から衛生と健康に関する記事を整理し、総合的に分析を加えたものである。

『フフ・トグ』は近代内モンゴルにおいて、発行時間が最も長いモンゴル語の新聞紙として知られている。同新聞にはモンゴル社会全体を網羅した豊富な学術的内容と近代化に関する膨大な情報が含まれ、内モンゴル近代史研究にとって極めて貴重な史料的价值を有する媒体である、と諸先学が位置づけている。

報告者は現在まで主として満洲国と当時の西部内モンゴルの医療衛生の伝播・定着等について研究してきた。その際、日本の財団法人・善隣協会と軍部、それに西洋からの聖母聖心会の宣教師たちが残した史料に依拠していた。医療衛生の技術と衛生思想の伝播と導入に重点をおいていた性質から、『フフ・トグ』新聞のような、モンゴル語で発行されていた新聞雑誌を渉猟できなかった。そのため、財団法人・善隣協会のような団体の実施した医療衛生活動に関するモンゴル人側の受け止め方や、宣伝と紹介された衛生観念について知ることが困難であった。モンゴル語『フフ・トグ』紙はその点を補う史料であるばかりでなく、満洲国の興安省のモンゴル人の健康・衛生の実態把握についても同時代の史料を提供している。『フフ・トグ』紙の創刊年度（1941）だけでも、約164本の健康・衛生・医療に関連する記事が網羅されている。その中で「健康、家庭及び修身」というコラムが設けられ、衛生・健康・医療の記事が多数掲載されている。本報告では、それらの記事を内容別と地域別に分類して分析した成果を公表する。日本発の近代的な医療制度と技術の導入と定着が満洲国で推進されると同時に、モンゴル人社会で広範囲にわたって衛生と健康を維持する基礎的な思想も積極的に進められ、啓発されていた活動の一端について報告する。

以上。